その他の教育研究業における交通事故（道路）災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
3	7~8	自宅から工場へ出張するため、交差点を青信号で直進したところ、対向車が右折してきて衝突した。	22	1000～9999
4	16～17	高速教習中、時速60kmで第一車線を進行していたところ、後方から大型貨物が高速で接近して、そのまま減速することなく（ノーブレーキ）追突された。 教習車はトラックに接触したまま前方に押し出され、中央分離帯のガードロープに衝突したのち、左前方に投げ出されて停車した。 教習車はこの衝撃でエアバッグが作動し運転者（教習生）及び助手席（指導員）、後部同乗者（教習生）がそれぞれ負傷した。	35	30～49
4	11～12	学外の共同研究先に歩いて向かう途中、正門前横断歩道を渡る時に、軽自動車が向かい側から左折して一時停止し、それを見て歩行し続けると、軽自動車が横断歩道に進行し、本人と車前方バンパー部分が衝突し、本人はボンネット上に倒れて2～3m移動後、前方地面に倒れた。	60	100～299
5	14～15	本社から客先へ車で向かっている途中、トンネル内のジャンクションで、間違って客先の方面ではない方に入ろうとしたため、慌ててハンドルを切り、本線に戻ろうとしたので、車体のバランスを崩し横転した。（単独事故）	62	10～29
5	14～15	信号機のある交差点で信号待ちをしていたところ、後方よりブレーキ音がした後に追突された。	52	30～49
6	15～16	学校用務で必要な混合油を購入し、自転車で学校へ戻る途中であった当該職員は、道路上で、道路脇の車庫から出てきた自動車と衝突し、下敷きになって引きずられた。 すぐに救急車が急行し、医療センターに搬送されたが、その後すぐに	64	1～9

		別の病院に転院となり、そこで治療を受けたが、負傷箇所からの出血がひどく、出血性ショックのため亡くなった。		
7	11˜12	支店での用務が終わり公用バイクで総合庁舎へ向かうため、銀行の駐車場から車道へ出て左折した際に、体勢を立て直そうとしてハンドルがぶれ、バランスを崩してバイクごと右側へ転倒してしまった。 後続車はいなかったが、道路側に転倒し危険であるため、通行人に早く歩道に上がるように言われたが、自分で動くことができなかった。	63	10～29
7	17～18	オープンキャンパスに参加した高校生13名と保護者1名の帰路を引率するため、契約したバスに添乗していた際、エンジントラブルが生じ、高速道路の路肩に停車したところ、後方からトラックに追突され、ガードレールを突き破り、高さ7～8mの土手に転落した。 その際に、額に切創、全身に打撲を負った。	59	30～49
7	11～12	50ccバイクで直進中、交差点内で左方より自動車が直進して来たため、自動車の前方右側に左胸部が接触した。 その際、バイクと共に右側へ転倒し、肋骨を骨折した。	62	50～99
9	14～15	仕事で、高校に向かうことになり、路上を走行中、赤信号になり車を停止中に後方からタクシーに追突された。	24	10～29
9	5～6	送迎バスに同乗し、最後の園児を自宅へ送っていく途中で、進行方向に向かって横向きに座席にすわっていたところ（バスは現場にて停車中）後方から相手方自動車が追突してきて負傷したものである。	30	10～29
12	15˜16	幼稚園バスの降園業務で添乗していた被災者が、バスから降りた園児の忘れ物（水筒）に気づき、急いでその園児宅に届けようとして、水筒を持ってバスを降り、バスの前を通って向こうへ渡ろうとしたとき、後方から来た軽四自動車にはねられた。	21	10～29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html